

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(美術)／鈴木  
久人

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

#### 1. 目標・計画

①教科専門の授業実践をととして本教科の専門内容の能力習得とあわせて、習得したことがどのように教育現場で展開できるかを積極的に取り上げ、指導力を高める。また実技、演習の授業内で制作、制作支援について討論を行い美術科教員としてのコミュニケーション能力を養う。  
②授業において積極的にデジタル機器を活用し、授業改善に努める。また基礎的能力を高め、併せて応用力を身につけ、教材開発をおこなう能力を養う。  
③実技、演習科目では複数の提出物や出席状況など総合的な成績評価を確立する。提出物の評価については単に他の学生との相対評価だけではなくその学生の取り組み等も評価の対象とし、これについて学生に周知する。

#### 2. 点検・評価

中間報告と同様次の通りである。

①教科専門の授業実践をととして本教科の専門内容の能力習得とあわせて、習得したことがどのように教育現場で展開できるかを積極的に取り上げた。具体的には学部では素描、絵画I、大学院では絵画制作研究、課題研究等である。  
②授業において積極的にデジタル機器を活用し、授業改善に努めた。また基礎的能力を高め、併せて応用力を身につけ、教材開発をおこなう能力を身に付けてもらえるように心がけた。具体的には学部では絵画I、大学院では絵画制作研究、課題研究等である。  
③実技、演習科目では複数の提出物や出席状況など総合的な成績評価を心がけ、すべての担当授業で時間を取り、履修者に説明をしている。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

授業において積極的にデジタル機器を活用し、授業改善に努める。また基礎的能力を高め、併せて応用力を身につけるための教材開発をおこなう。

実技、演習科目では複数の提出物や出席状況など総合的な成績評価を確立する。提出物の評価については単に他の学生との相対評価だけでなくその学生の取り組み等も評価の対象としたい。

制作研究・生活を支援するためオフィスアワー以外での学生への声かけを積極的に行い、学生が意欲的に制作研究に取り組むことができるよう、環境整備に努める。

また実技面など教科専門での教員採用試験の支援を積極的におこなう。

#### 2. 点検・評価

中間報告と同様次の通りである。

授業において積極的にデジタル機器を活用し、授業改善に努めた。また基礎的能力を高め、併せて応用力を身につけるための教材開発をおこなった。

実技、演習科目では複数の提出物や出席状況など総合的な成績評価を心がけ、すべての担当授業で時間を取り、履修者に説明をしている。

制作研究・生活を支援するためオフィスアワー以外での学生への声かけを積極的に行い、学生が意欲的に制作研究に取り組むことができるよう、環境整備に努めた。

教員採用試験の中の実技試験問題の分析をおこない、指導、助言、複数回の模擬試験にあたった。また過去の実技試験の問題等情報収集も引き続きおこなっている。

### Ⅱ－2. 研究

#### 1. 目標・計画

これまでどおりアクリル絵具、油絵具、和紙を中心材としたミクスト・メディアでの表現、具体的には和紙や布をマチエール材として使用することでその凹凸が単なるマチエールとしてではなく、主題の中心的形態としての成立についての研究をおこない、年間2度以上の発表をおこなう。

#### 2. 点検・評価

中間報告の通りであり、目標計画を達成していると考えられる。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

コース長として積極的に大学運営を補助する。  
大学院定員充足のための方策に協力する。

### 2. 点検・評価

中間報告の通りであり、あわせて教職キャリアセンター兼務教員としてグレード制(美術分野)を運営し、実際に学生の指導を行い、学生の実技能力育成に努めた。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

教育実践フィールド研究(大学院), 初等中等教科教育実践(学部)などの授業や附属学校園の研究会を通して附属学校との協力連携を強化する。  
教育支援講師・アドバイザー等派遣事業などを通じて地域連携活動を強化していきたい。

### 2. 点検・評価

中間報告に追加して後期では徳島県立近代美術館主催のスケッチ教室講師(ボランティア)を務めた。鳴門市ウチノ海総合公園児童画コンクール審査委員長, また徳島県立近代美術館主催チャレンジとくしま芸術祭2013展示部門の審査委員を務め, 前期に引き続き地域連携に努めた。

### Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

中間報告同様であるが後期も引き続き、複数の研究者に学生紹介を依頼した。